

愛知労働問題研究所の 設立にあたって



愛知大学 宮崎 鎮雄

永年の念願であった愛知労働問題研究所の設立が、愛知労働問題研究会の持続的活動と統一労組懇をはじめとする自覚的労働運動の支えによって、いよいよ実現することになりました。

わが国有数の独占資本とその庇護のもとに生まれ育てられた労働運動の右翼的潮流の牙城ともいうべき愛知の地に、労働問題及び労働運動をめぐる科学的な調査・研究機関が設置されることの意義は、きわめて大きいものと確信致します。そして、労働運動の右翼的再編が全民労連（「連合」）結成というひとつの到達点を迎えた時期に、この研究所が設立されることも、特別に重要な意義があるものといえましょう。さらに、女子労働者保護の大幅な後退を伴う男女雇用機会均等法の成立と労基法の改悪、中間搾取の合法化と不安定雇用の激増を促す労働者派遣法の制定、そして労働時間の弾力化を中心とする労働力の効率的利用をめざした労基法の改悪など、労働諸法制の大改編の進む中で、この研究所設立は、階級的・民主的労働運動が、常勤の正規従業員による従来のわが国労働運動の弱点を克服して進展する上で、歴史的に注目すべき事業に違ひありません。

愛知労働問題研究所は、労働者階級と広範な勤労大衆の利益を守る立場にたち、階級的民主的な労働運動の必要に応えることを目的にして、研究者と労働運動活動家の恒常的、多面的共同事業として、愛知県および東海地方の労働問題を中心に扱い、さらに労働組合と各種民主団体の調査・政策活動の発展、労働問題専攻の若い民主的研究者の育成などのために積極的な援助を行い、加えて、他の民主的な研究・調査機関との連携・協同をすすめることをめざします。

この研究所の存在が、労働組合の民主的政策づくりを促し、組合再生のために奮闘している活動家の理論的拠所となり、そして又、この研究所の活動が、広く労働者、勤労市民の多くの運動に役立ち、運動のなかで、調査・研究が実証されることを心から期待するものです。

（教授、専攻・労働法）

- ・ p2,3-総評「解体」と愛労評
- ・ p4,5-労働問題研究会のテーマと報告者、第40回研究会案内
- ・ p6,7-メッセージ紹介、10月の予定

総評「解体」と愛労評

愛高教 見 崎 徳 弘

1

1982年12月発足した全民労協は、現在57単産570万人の大世帯になっているが、これがこの11月20日、協議体から連合体に移行する。全日本民間労働組合連合会、略称「連合」。数の上では、わが国最大のナショナルセンターの誕生である。

これを見届ける形で、その 前日の 11月19日、同盟が解散する。この同盟は、54年に総評を脱退した全労会議を前身とし、64年結成された。以来、反共と労資協調・体制擁護の路線をとり、日本の労働運動における右翼潮流の拠点として、一貫して労働者・国民の利益を裏切ってきた。政党としては民社党を支持し、革新自治体つぶしにも狂奔した。賃金自粛。人べらし「合理化」容認。臨調・行革断行の主張（一人勧「凍結」・抑制。健保・年金の改悪。国鉄解体……等）。農産物輸入自由化要求（一農林業つぶし）等、この数年の例を見ても、幹部の反労働者性は明白である。……その同盟が解散する！それは、右翼的労働運動の拠点としての同盟の組織と路線が、ほとんどそのまま、むしろ、より強力鮮明な形で「連合」に引き継がれるからに他ならない。

（注）「連合」570万の内訳（一 同盟

35%で最大。総評は22%）、中央事務局70名の内訳（同盟39、中立労連10、総評15…）等とともにその綱領的文書『進路と役割』を見るとよい。

2

ところが総評は、ことし7月の大会で全民労協の「連合」移行を認め、総評内民間単産の「連合」加入を促すとともに、官公労もこれに加える「全的統一」方針をうちだし、「90年、総評解体」を自から決めてしまった。多くの反対や危惧の声を押し切って。

総評はこれまで、特定政党支持をはじめ少なからぬ弱点や問題点をかかえてきた。しかし同時に、51年の第2回大会で「平和4原則」を採択、「ニワトリからアヒルへ」と呼ばれた変身をとげたのを機に、労働者・国民の要求や期待を担いさまざまに積極的な運動をくりひろげてきた。大幅賃上げや労働条件の改善、福祉の充実などをめざしての国民春闘。三井三池をはじめとする首切り「合理化」反対闘争。安保反対・ベトナム侵略反対や反核平和の国民運動。勤評、小選挙区制や国家機密法などを許さぬたたかい……。だからこそ総評は労働者の一定の信頼を集め、日本最大のナショナルセンターとして機能してきた。その総評が、8

0年「社公政権構想」合意と前後して同盟路線へのにじり寄りを始め、ついに「90年解体」を決めてしまったのである。

3

総評がここまで右に転落した原因や経過については、触れるスペースがない。ただ、いずれにせよ総評は90年にはなくなるのである。

きびしさを増す政府自民党や財界の攻勢＝80年代戦略は、円高の下で急速な産業空洞化をすすめ、日米軍事同盟の強化、臨調・行革・増税・軍拡路線をいっそう強化するだろう。そして「連合」はそのお先棒をかつぐであろう。ならば、自らのいのちとくらし、平和、民主主義は誰が守る？――統一労組懇が200万勢力に成長したのも、弾圧に抗して闘いの旗を守った国労などが「連合に行かない・行けない（左派）組合の総結集」を呼びかけ「総評運動の積極的伝統を守ろう」と訴えるのも、同じ危機感からである。ここまで来た以上、今は統一労組懇と左派を中心に、労働者の利益を守って闘う、新しいホンモノのナショナルセンターがめざされねばならない。

4

県内ではどうか。本当に労働者、県民の利益を守る気なら、これまで県下の労働運動の中心的なセンターであった愛労評（24万人）のとるべき道は明かだろう。総評方針の如何にかかわ

らず今日の労戦右翼再編の誤りを指摘し、要求にもとづく共同行動の拡大を通じて組織を拡大し、特定政党支持を改めて、真に労働者・県民のためのセンターに徹することだ。

ところが、今の愛労評指導部は、総評方針を絶対のものとして受けとめ、「連合」への道を急ごう、という姿勢である。愛知の特殊事情として愛知同盟が強いこと（14万）、トヨタを中心とする中立労協（22万）も民社支持で、90年まで待っていてはイニシアを全部とられる（＝役員にもなれぬ）という恐怖感が背後にある。このままだと、「連合」を母体とする「統一」協議は急ピッチだろう。

今のところ、こうした愛労評方針にハッキリ反対しているのは自治労、愛高教、国公、全日自労・建設一般、私教連など、統一労組懇系の単産だけのように見える。しかし、それ以外の単産の中にも、官公労や中小労組を中心に、「連合」で生活や権利が守れるか？の疑問・不安は大きく広がっている。指導部自身、「時の流れだ」との諦念はあっても、燃える希望や信念はない。「愛労評や地区労がなくなったら、俺たちはどこを頼りにできるのか」――こういう素朴な心配に対し、正面からこたえうる展望（理論）と運動（具体的実戦）が急務だと思う。

（みさき・とくひろ、
副委員長、愛労評常任幹事）

(4)

愛知労働問題研究会のテーマと報告者

1983年3月から 87年7月まで

回 テーマ (報告者)

- 1、愛知の労働経済問題について
(大木一訓・福祉大)
- 2、愛知県労働経済の分析
(伊藤欽次・自治労)
- 3、トヨタ自工の分析
(梅田貞之・共産党、猿田正機・中京大、故横倉久夫・名城大)
- 4、労働者状態、意識内容、労働者教育
(海保 孝・学習協)
- 5、ME化による愛知の労働問題
(佐野忠紀・機関紙連合通信)
- 6、小集団活動の現状と闘争課題
(長沢孝司・福祉大)
- 7、雇用保険改悪の狙いと背景
(大木一訓・福祉大)
- 8、「メカトロニクス化」の雇用・下請企業への影響
(森 靖雄・福祉大)
- 9、職場を基礎に自由確保の闘い
(西野脈郎・愛知職自連)
- 10、愛知職自連「職場に自由を——愛知討論集会」
- 11、愛知統一労組懇運動と労働問題
(坂崎 進・統一労組懇)
大企業労組役選調査項目
(猿田正機・中京大)
- 12、「大企業労組役員選挙実態調査票」について
(長沢孝司・福祉大)
大企業労組の役選の実態
(西野脈郎・愛知職自連)
- 13、『日本の労働組合運動』講座(大月書店)第1巻について
(海保 孝・学習協)
「愛知統一労組懇85春闘方針案」について
(阿部精六・統一労組懇)
- 14、ヨーロッパの労働事情、社会福祉の状況
(都丸泰助・福祉大)
反民主的役選の法的問題
(宮崎鎮雄・愛知大)
- 15、愛知の未組織労働者の組織化における課題(阿部精六・統一労組懇)
名古屋市営住宅に住む小零細企業労働者の状態(長沢孝司・福祉大)
- 16、労働組合役員選挙の仕組み
(石田 真・名古屋大)
労働組合役員選挙実態調査中間報告
(大木、長沢、猿田)
- 17、名古屋市長選挙について
(相羽健次・革新市政の会)
- 18、国鉄再建の方向と展望
(児塚錫夫・全動労)
『労働組合組織論』(「日本労働組合運動」第5巻 大月書店)を読んで——役選問題に関連して
(宮崎鎮雄・愛知大)
- 19、労働者派遣法と労働政策の転換
(大木一訓・福祉大)
「活動家ハンドブック、春闘討論資料パンフ」について
(猿田・中京大、坂崎、阿部・統一労組懇)

- 20、社会保障制度の改悪と問題点
(長 宏・福祉大)
- 21、「最近の中流意識崩壊論」をめぐって
(松村一隆・愛知大)
- 22、86春闘をめぐる状況と愛知の労働運動
(伊藤欽次・自治労、海保孝・学習協、阿部精六・統一労組懇)
- 23、メカトロニクスをもちいた労働
(山下幸男・中京大)
- 24、現段階の情勢論と大企業での闘い
(大内昌宏・共産党)
- 25、教研集会に参加してー今日の教育問題と教育臨調
(廣田祥治・愛高教)
研究所設立にむけて
- 26、労基法改悪をめぐってー労働法制全面改悪
(野村 晃・福祉大)
当面する労問研活動と研究所設立にむけて
- 27、愛知の婦人労働問題について
(加藤瑠美子・医労協、近藤、水野・新婦人、海保孝・学習協)
- 28、ME技術革新と雇用・失業問題ー県下の調査の素材として
(猿田正機・中京大)
円高下のトヨタを取材して
(海保 孝・学習協)
- 29、円高不況下における中小企業問題
(森 靖雄・福祉大)
- 30、労働者をめぐる健康問題ー生活、職場との関連で
(山田信也・名古屋大)
- 31、国鉄分割・民営化問題と反対のたたかい
(児塚錫夫・全動労)
愛知の87春闘パンフについて
- 32、未組織労働者の組織化について
(河合孝徳・「きずな」、畠山芳春・建設一般)
- 33、トヨタ下請企業の実態
(長沢孝司・福祉大)
- 34、87年愛知の労働運動を考える
(柏木啓韶・新日鉄、伊藤欽次・自治労、大木一訓・福祉大、海保孝・学習協)
- 35、税制「改革」と大型間接税
(富田・全国税、奥村・愛商連)
- 36、労働基準法改悪と労働法制
(宮崎鎮雄・愛知大)
- 37、アジアNICS(新興工業諸国)の現状と日本の産業「空洞化」
(森 靖雄・福祉大)
- 38、大企業の人べらし「合理化」と雇用・失業問題
(山下東彦・労問研、石川智男・石播人権侵害をやめさせる会、石川曉生・全動労)
- 39、愛知の労働時間実態調査報告
(大木一訓・福祉大、猿田正機・中京大、長沢孝司・福祉大、渡辺廣二・労問研、佐々木昭三・学習協)

第40回研究会案内

日・10月24日(土)午後1時
所・名古屋市婦人会館
①産業空洞化と愛知経済(野原敏雄・中京大)②愛知の労働戦線をめぐる状況(見崎徳弘・愛高教)
会員・無料、会員外 500 円
ふるって参加してください

愛知労働問題 研究所に期待 する (メッセージ紹介)

法政大学 高 木 督 夫 氏

愛知労働問題研究所の設立を心からお祝い申し上げます。

わが国労働運動をとりまく状況は厳しいとよく言われますが、同時に大きな飛躍の可能性に十二分にめぐまれた状況だと思います。皆さん方の研究所が、その飛躍のために奮闘され、すばらしい成果をあげられることを、切に期待致しております。

皆さん方の研究所設立の呼びかけには、「他の民主的な労働問題関係研究所・研究会との交流をはかり、それらとの連携と協同をいろいろの形で発展させたい」と書いてあります。私たち

も、自分の持ち場でがんばって、そのうちに民主的な労働関係機関をつくり、皆さん方と協力して活動を発展させてゆきたいと考えております。

私たちのパイオニアとしての御活躍をお祈りいたします。

1987年9月10日

労働者教育協会

理事長 辻 岡 靖 仁 氏

愛知労働問題研究所の設立にあたり労働者教育協会を代表し、また、労働問題の研究者の一人として、心からお祝いのメッセージを送ります。

「連合」発足を契機として、わが国の労働組合運動は反共・労資一体化の右翼潮流と搾取に反対し平和と民主主義を守る階級的潮流との激しい対決の時代をむかえます。

10月の行事予定

<研 究 所>

17日 第1回「所員会議」

24日 第40回労働問題研究会
午後1時、名古屋市婦人会館

11月7日 第1回理事会(予定)

<統一労組懇>

4日 くらし、雇用、地域経済
守る知多半島連絡会「学習討論集
会」 14-17時 東海市文化セン
ター・第3講義室(尾張横須賀下車)

秋の労働講座 名古屋・婦人会館

第1講義 10月14日(水)

「労戦問題の現局面は・・・」

統一労組懇常任代表委員

猿 橋 真

第2講義 10月23日(金)

「全民労協の政策的ハタン・・・」

日本福祉大教授 大 木 一 訓

第3講義 10月30日(金)

「地域統一労組懇運動の強化を」

愛知統一労組懇事務局長

小 寺 徹

私たちは何としても、階級的潮流を労働組合運動の本流にするために全力をつくさなければならないときです。

いまこそ、要求にもとづき全国的・地域的共闘を発展させる努力とあわせ労働者の階級的教育活動を飛躍的につよめる必要があります。そして、この二つをなしとげるためにこそ、全国的にも地方的にも調査・研究を基礎にした具体的な政策、展望がもとめられているのではないのでしょうか。

愛知でのみなさん方の試みが成功裡に前進することをねがうとともに、私も、東京と全国での調査研究活動の発展に微力をつくしたいと思います。

1987年 9月16日



<愛 労 評>

8、9日 第56回定期大会
(名古屋市公会堂)

24日 10・24県民集会(午後、市公会堂、「映画」と「講演」)

25日 10・25依佐美基地撤去「人間の鎖行動」

<そ の 他>

4日 愛保協・保育活動集会

5日 名古屋港を考える会第5回委員会

全トヨタ労連 全トヨタ労働組合(得本輝人委員長、組合員20万人)は、9月11、12日、名古屋・厚生年金会館で定期大会を開いた。ここで、社会問題となっていた夏の「振替休日制」(トヨタカレンダー、土、日を木、金とした)にたいして、「来年の出勤カレンダーは原則として土、日曜日を休日とする」ことを決議、「振替休日制」をこんご労組として受け入れないことにした。

JR東海労組 労使協調路線をとる鉄労、動労、社員労、日鉄労、列車協、鉄輪会の6組合は、9月13日「東海旅客鉄道労働組合」(略称・JR東海労組)の結成大会が開かれた。全社員の63%、13,200人を組織したといわれている。JR東海内の労組は、同労組と国労、鉄産労、全動労の4組合となった。

16日 「革新市政の会」総会
(午後6時30分、産業貿易館)

21日 10・21反安保統一行動

22-24日 イタリアCGIL
エミリャロマーニャ州代表团、自治労県本部などと交流

23日 名古屋市職労40周年記念式典(厚生年金会館)

31日 愛知県職40周年記念式典(名古屋、サンブラザー)

愛知の労働運動・・・1987年8月

1日 愛知県の倒産件数 37件
(7-31、東京リサーチ)

愛知の労災死最悪(上半期、全国一の
65人、昨年比でも15人多い)

6日 反核訴え「平和ふうせん」、
名古屋市職労、名古屋水労、国公共闘
、県職など6団体、400人が「平和
の世の中を守って」「核兵器はいらない」のメッセージをつけて。県下では
、豊橋、犬山、西尾の市職労もとりく
む

8日 東海鉄産労が第2回定期大会
ひらく。会社側も挨拶。方針は「健全
な労使関係、会社との信頼関係」確立
を

20日 全医労が県内6ヵ所で、「国
立病院の統廃合・委譲に反対して」早
朝職場集会・病院前座り込み

22日 高齢者大運動実行委員会結成
民医連、自治労、建設一般、統一労組
懇など9団体。高齢者みずから、高齢
者の要求実現をめざす。

23日 全動労、北海道などからの転
入者激励集会(湯ートピアで270人
参加)

30日 愛知医労連定期大会

愛知の政治経済・・・1987年8月

7日 愛知県が円高対策として「下
請中小対策資金貸付制度」創設

12日 愛知県などが「産業技術首都
圏」の研究開発中枢として「小牧・春
日井ニュータウン地域開発構想」をま
とめる

22日 89年世界デザイン会議の名古
屋開催が正式決定

23日 小牧市長選挙、変則休日で投
票率最低、9事業所、5,000人に
影響

24日 東海銀行が首都移転のリポー
ト発表、名古屋が最適、2兆8千億円
で可能

25日 63年度建設省概算要求まと
まる、伊勢湾岸道路に42億円の事業
費、笹島地区、稲沢地区が新都市拠点
整備事業の調査地区に。

26日 愛知県が「名誉県民」制度を
創設、第1号受章者に桑原幹根氏を選
定。トヨタ系企業(荒川車体、豊田工
機)があいついで米進出決定。トヨタ
系企業の米国進出合計12社に。

27日 トヨタが6月期決算発表、売
上高前期比、4,4%減、経常利益同
18,5%減、工販合併後初めて「利
益日本一」譲る

— さいごに・ひとこと —

第1号をおとどけします。60の手習いのワープロで、ようやくこんな
ものができあがりました。内容などについて意見をお聞かせください。第
2号は、10月中旬にお届けできるようガンバります。(いとう)